

管内企業トップ訓示

「宮坂一流化」へ

宮坂建設工業
宮坂寿文社長



品質・社員・会社を一流にし、全国に通ずる「宮坂一流化」を目指す。官民から宮坂建設工業の立ち位置は注目されており、社員の皆さんも発注者の負託に応えてほしい。会社は皆さん自身の会社である。「自身自身が頑張らねばこの会社はなくなる」という気持ちを持って、頑張ってもらいたい。地域に寄り添い、地域とともに歩む会社でありたい。

(1日、北海道ホテル)

新社会人として決意新た 管内で入社式や発令式



宣誓する帯広信金の田中陽海さん（左）と西村彩夏さん（井上浩明撮影）

2019年度が始動した1日、管内の企業や自治体で入社式、発令式が行われた。真新しい服装の新入社員らが辞令を受け取り、新

社会人としての決意を新たにした。

帯広信金は市内で入庫式を行い、新入職員30人が高橋常夫理事長から1人ずつ

辞令を受け取った。高橋理事長は訓示で「十勝の繁栄のために歩んでいくことが大きな使命。豊かな創造力と発想力、若さあふれる行動力で金庫の将来を担う人材となってほしい」と激励した。新入職員を代表し田中陽海さん(22)と西村彩夏さん(22)が「顧客の課題を共に考え、解決に向け汗を流し、頼りにされるよう使命感と向上心を持って、最善の努力をします」と誓った。

帯広市役所では男女計42人の新規採用職員の辞令交付式が行われた。米沢則寿市長から職員一人一人が辞令を受け取り、壇上で決意を表明。市教委企画総務課に配属された折等繁保さん

(22)が「誠実かつ公正に職務を執行します」と宣誓した。米沢市長は「先入観や前例にとらわれず、より良いまちづくりに取り組んでほしい」と呼びかけた。

宮坂建設工業には新卒や中途採用の計16人が入社した。市内のホテルで行われた入社式では新卒14人が宮坂寿文社長から辞令を受け取り壇上で決意表明。札幌支社土木部に配属された鈴木貴晶さん(22)は「早く戦力になれるよう頑張ります」と抱負を述べた。宮坂社長は「情報共有を徹底し自己表現力を上げることで一流の会社、一流の社員となる」と呼びかけた。(米田真梨子、古谷育世、広田まさの)

会社を支える気持ちで

宮坂建設工業が入社式 新入社員14人を激励

【帯広発】宮坂建設工業（帯広市）は1日、帯広市内の北海道ホテルで2019年度入社式を行った。



式を執り行った。本年度の新入社員は14人で、宮坂社長が一人ひとりに辞令を交付。新入社員たちは晴れやかな表情を浮かべながら、社人としてのスタートを切った。

本年度の新入社員は、大卒7人、専門学校卒1人、高卒6人の計14人で、職種別では土木6人、建築5人、事務3人。配属先は帯広本社が8人、札幌支社が6人となっている。

式では、宮坂社長が新入社員に辞令を交付。新入社員たちは、出迎えた役員が宮坂社長（右）が新入社員一人ひとりに辞令を交付した。

約250人に対し「常に自分は何をすべきか考え、仕事に臨みたい」「分からないことだらけで不安だが、早く戦力になれるよう頑張りたい」と話していた。

品質・社員・会社を一流に

宮坂社長が本年度方針を説明

入社式に先立ち、報道陣のインタビューに応じた宮坂社長は、本年度の社長方針に「徹底的に健全化する。品質・一流、社員・一流、会社・一流」を掲げたことを説明した。「本年度は北海道を地元企業として全国に

張っていきたい」と抱負を述べた。宮坂社長は「皆さん自身がこの会社を支えていくという気持ちで頑張ってもらいたい。企業としても活性化の良い機会であり、成長させられるよう努力していきたい」と話していた。

標は320億円、売上目標は300億円、営業利益目標は4%の12億円であり、それをもち健全性を高めていきたいと述べた。組織改革では、ICTソリューション部を新設し、i-Constructionの取組をこれまで以上に加速させると説明。「全道的には準備はできているが、全国レベルでみるとまだ」とも説明した。

14人が入社し 地域へ貢献誓う

宮坂建設工業

【帯広発】宮坂建設工業（本社・帯広）は1日、帯広市内の北海道ホテルで2019年度の入社式を開いた。大卒7人、専門学校卒1人、高卒6人の計14人が宮坂寿文社長から辞令を受け、会社や地域への貢献を誓った。

配属先は、土木6人、建築5人、総務3人という内訳。約250人の役員と対面し、「会社の一人として責任を持った行動をしたい」と建設で地



域や社会に貢献したい」と一人一人が新社会人としての抱負を述べた。中途採用で2人が入社した。

同社は19年度、ICTソリューション部を新設し工事の品質向上や効率化を図る。新たな技術へ挑んでいく中で、宮坂社長は「時流を捉えるのが新入社員の仕事」と期待を寄せた。